

上部消化管造影(バリウム)検査説明書

下記の方は、健康センターではこの検査は出来ません。

- 妊娠中の方、妊娠の可能性がある方
- 76歳以上の方
- 体重120kg以上の方(撮影装置の安全上の問題から)
- ペースメーカー、脳室シャントを使用している方
- 人工透析中の方、心臓・腎疾患などで水分制限のある方
- 心臓カテーテル処置をして3ヶ月以内の方
- 消化管内視鏡的切除をして3ヶ月以内の方
- ここ1年以内に手術をした方(事前にお問い合わせ下さい)
- 過去にバリウム検査でアレルギー症状を起こしたことがある方
- 胃切除をされた方
- 腸管の炎症、出血、閉塞が疑われる方
- 心疾患・脳血管疾患で1年以内に発作がある方
- 前日に胃や大腸の組織検査をされた方
- 検査技師の指示が伝わらない方(高度難聴、日本語が理解できないなど)
- 体位変換が困難な方(麻痺、骨折、四肢欠損、腰痛など)

下記の方は、健康センターではこの検査が中止になる可能性があります。

- 授乳中の方
- 便秘が強い方
- 現在胃腸の調子が悪い方
- 腹部関連の悪性疾患で治療中、経過観察中の方
- 頻繁な喘息発作がある方
- めまいやふらつきが強い方
- 日頃ムセやすい方
- 当日血圧が180mmHg以上の方
- インスリンポンプや持続グルコース測定器を使用中の方(主治医の許可があり取り外せる場合は検査ができます)

その他の病歴や運動機能、認知障害、体調、当日の検査結果等、安全を考慮して検査を中止する場合がございます。

1. 検査の目的

上部消化管造影検査とは、バリウムを食道・胃・十二指腸粘膜面に付着させ、X線透視下にバリウム像を映し出す事により消化管内部の像を構築し、腫瘍やポリープ、潰瘍など立体的変化を有する病変の発見、診断を目的としています。

2. 検査の方法

検査前日は21時以降に食事を摂取しないで下さい(水・白湯は可)。

消化管の動きを抑える筋肉注射(ブスコパン)をした後、バリウムと、胃内を膨らませるための発泡剤を飲んでいただき、検査台を倒したり立たせたりしながら、複数の方向から食道・胃及び十二指腸の撮影を行ないます。

また、機械により腹部を部分的に圧迫しながらの撮影も行ないます。

3. 医療被ばくについて

バリウム検査1回の被ばく量は2~4mSvです。

(1年間に自然界から受ける平均被ばく量が2.4mSvです。)

健康を害する程の放射線量ではありません。

4. 検査の危険性

稀ではありますがこの検査により、以下のような偶発症が報告されています。

- ・造影剤や前処置のブスコパン筋肉注射によるアレルギー反応(血圧低下や呼吸困難)
- ・バリウムが十分排泄されない事による腸閉塞、腸管穿孔
(検査後には、バリウム排泄促進のための下剤を服用して頂きます)
- ・バリウムの誤嚥による肺炎
- ・腹部圧迫の際の肋骨骨折
- ・検査台からの転落

万一上記のような偶発症が生じた場合は適切に処置いたします。又その場合は通常の保険診療にて行います。

5. 代替え可能な検査

食道・胃・十二指腸の検査は、上部消化管造影検査以外に内視鏡による検査があります。

※一部、お申し込みの健保組合・企業によっては変更できない場合がございます。

6. 同意の取り消しについて

いったん同意書を提出しても、検査が開始されるまでは同意を取り消すことができます。同意を撤回される場合は、その旨を健康センター職員までお申し出下さい。

7. 問い合わせ先

この検査について質問がある場合は、相澤健康センターまでご連絡下さい。